



Rotary



国際ロータリー 第2550地区



宇都宮東ロータリークラブ会報

http://www.ri2550uerc.gr.jp/

会 長 細谷 俊夫 幹 事 伴 誠 会報・雑誌委員長 床井 光雄

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ 例会日 毎週火曜日(12:30~) 事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算3084号 2025年3月18日(晴れ) 第34回例会 会員数100名

ハイブリッド例会

点 鐘 細谷会長  
司 会 副SAA 飯村会員

- ◇ロータリーソング「我等の生業」
- ◇本日のランチ 小付 煮物 クリームコロケサラ  
ダ添え 香の物 汁 御飯 デザート



ビジター紹介 片嶋副会長

- ◇卓話講師 (株)宇都宮コミュニティメディア (ミヤラジ) 代表取締役 稲葉 克明 様
- ◇米山記念奨学生 何 蓁尼 (カ・ジェニー) さん  
とご家族の皆様 (13名)



会長挨拶 細谷俊夫会長

皆さん、こんにちは。今日は米山記念奨学生のカ・ジェニーさんのご家族がお見えになっています。ようこそおいで下さいました。ジェニーさんは、卒業挨拶という事でいらっしゃいました。これからの活躍を応援していきたいと思えます。頑張ってください。今日は、精霊の日です。万葉集を代表する歌人柿本人麻呂、女流歌人の和泉式部と小野小町、この3人の忌日が3月18日であると伝えられていることから記念日となっています。また、語呂合わせで毎月18日はセコムが制定した防犯の日です。年度末の慌ただしいなか、皆様も犯罪等に巻き込まれないよう注意しましょう。

宇都宮市の自治会についてお話をしたいと思えます。自治会は、住みよいまちを実現するために、そこに住む人々が協働で地域内の様々な問題解決に取り組むとともに、親睦を図りながらまち作りを進める任意の団体です。近年、日本は少子高齢社会を迎え、私たちを取り巻く環境は日々変わり、地域社会が抱える問題も多岐にわたっています。東日本大震災を契機とし、日頃から隣近所で助け合える、いわ

ゆる地域コミュニティの重要性が再認識されています。災害等いざというとき、お互い助け合える関係を構築していくためには、地域内で顔の見える関係を作り、住民同士の絆を深めておくことが何より重要です。その自治会の加入率が近年低下傾向にあります。ちなみに2024年4月の宇都宮市の自治会加入率は平均61.2%だそうです。自分のところは大丈夫と思っている方が多いと思いますが、災害は忘れたころにやってきます。もっと地域コミュニティを大切にしていきたいと思います。という事で、今日の卓話は、ミヤラジ代表取締役の稲葉克明様です。後ほど卓話をよろしくお願ひいたします。

- ◇米山記念奨学生 卒業挨拶
- ・米山奨学生カウンセラー 辻 裕司会員

明後日20日に文星芸術大学を卒業するにあたり、我がクラブに家族の皆様といらっしゃいました。就職は青山のデザイン関係の会社に決まっております。先日、大学の卒業作品展では大作を出展しておりました。

※作品は奨励賞を受賞



- ・米山記念奨学生 何 蓁尼さん



宇都宮東RCの皆様、一年間ありがとうございました。最後の例会に家族と一緒に参加出来てとても嬉しいです。姉妹クラブの鳳山西區扶輪社訪問に参加する等、いろいろな経験をさせていただき、ありがとうございました。

— ご家族の紹介 —

※会員の皆様にお土産をいただきました。

◇奨学金の授与

米山記念奨学生 何 泰尼さん



幹事報告

伴幹事

- ◇スペシャルオリンピックス栃木の協賛募金箱を各テーブルに回覧。3/4例会にて宇都宮南RCのキャラバン隊が説明した通り、知的障害のある人たちに、トレーニングの場と競技会を提供する活動を行っている団体ですので、是非ともご理解をいただき、ご協力をお願い致します。
- ◇3月12日に細谷会長と第3回会長幹事会に出席しました。各クラブの特徴的な例会内容を報告し、他クラブの例会内容を共有化しました。また、各クラブの入会金、会費、例会時の食事や駐車場の料金など、昨今の物価高騰に伴う値上げの問題などについて話し合いました。
- ◇4月6日は細谷年度親睦ゴルフ大会。申し込み期限3月25日。奮ってご参加を。
- ◇4月26日(土)、青少年奉仕委員会とインターアクト委員会が中心となり、宇商マーキュリーと足尾植樹活動予定。可能な方はご参加を。



委員会報告

- ◇スマイルボックス委員会 中山委員  
石川元信会員

「今日彼岸 菩提の種を蒔く日かな」皆様の幸せを祈ってスマイル。

- ◇次年度理事会について 金子次年度幹事  
本日 18時30分～ ホテルニューイタヤにて  
第2回次年度田崎年度3月定例理事会開催。
- ◇職業奉仕委員会 代読 S A A  
4月15日(火) 12時30分～ 職場訪問(移動例会)。締切りは本日。参加の方は返信を。



卓話

「コミュニティFMの役割とは」



(株)宇都宮コミュニティメディア (ミヤラジ)

代表取締役 稲葉 克明 様

皆様、こんにちは。細谷会長から地域のコミュニティを大切にしたい、というお話がありましたが、コミュニティFMの役割の一つに、地域の活性化、ということもありますので、その辺も含めてご紹介させていただきたいと思います。今日の私の役目のひとつに、皆様に番組に出て欲しい、というお誘いがあります。ミヤラジは2017年3月8日に開局をして、8周年を迎えたところですが、まだまだ、認知されていません。宇都宮市民50万人のうちの数千人しかまだ出て貰っていませんので、是非、番組へのご出演をよろしく願いいたします。

— パワーポイントにて説明 —

ミヤラジの活動の経緯をお話いたします。2010年に、「宇都宮コミュニティFM研究会」という名前で私が活動をはじめますが、その当時、コミュニティFM放送局は全国に260局位の数でした。コミュニティFM局はまさに地域のラジオ局です。1992年に制度化されました。1995年の阪神淡路大震災の時には、地域ラジオ局で、どこで水や物資を配っているか、どこでボランティアの人が足りないか等の情報を放送し、大きな役割を果たしました。神戸のFMわいわいという放送局は、英語をはじめ韓国語、中国語、ベトナム語等10か国語で放送しました。それが総務省の目にとまり、そこから、コミュニティFM局は災害の時に強いということ、役割が与えられました。地域の活性化というのが元々の役割ですが、災害時の情報発信という役割も担うことになり、大きくこの2つが、今、コミュニティFMに課せられている役割ということになります。実は、栃木県は、最後までコミュニティFMが無かった県です。それだけ、ある意味平和というところもありますが、災害はいつ起こるか分かりません。2019年10月の台風19号が記憶に新しいところです。昼間からの大雨で、昼頃から避難所が開設されていました。まさか田川が溢れるとは思っていなかったのですが、夕方になるとこれはまずいぞ、という空気が流れ、スタッフ4人だけ残して、明け方5時位迄、放送していました。田川氾濫という公式な情報が入ってきたのは夜10時頃でした。いつ起こるか分からない災害に、我々も備えておかなければなりません。

話は少し脱線しますが、今年1月13日の日経新聞に、能登半島の震災で臨時災害放送局が設置できなかった、という記事がありました。臨時災害放送局とは、災害が起きた時に、行政(例えば宇都宮なら宇都宮市)が臨時災害放送局を設置したいと総務省にお願いすると、1～2日で放送局



をスタートすることができます。簡単な放送機材も貸してくれます。能登半島の災害の時は、臨時災害放送局をやる人、しゃべる人がいなかったために、情報が集まってきても発信できないという状況だったそうです。宇都宮でもし災害があった時には、ミヤラジが臨時災害放送局に指名されると思います。RADIO BERRYやCRT 栃木放送は県域の放送局なので、県単位の情報発信しますが、より小さなエリアのコミュニティの発信は我々が受けることになると思います。

今年3月8日、日経新聞に、「まちのFM災害時の頼り」という記事があり、4月1日に配布予定のミヤラジのマガジンに、「まちのFM災害時の頼り～日経新聞の記事に寄せて～」というコラムを書かせてもらいました。日経新聞の記事は、「地域に密着した情報を届ける『コミュニティFM』が全国でひろがっている」という内容で、全国に今、345局あるそうです。新聞の2面に載ったのですが、特筆すべきことは、地域面に、その地域のコミュニティFM放送局が何局あって、それぞれどんなことをやっているのか紹介されていました。また、「全国の放送局は4割強が赤字。災害時に活躍するには経営の健全性の維持が欠かせない」と指摘しています。我々も災害時には情報が集まり、発信する、「頼りになる」放送局を目指していますが、民間で立ち上がった放送局ですので、広告収入だけで維持していくのは、なかなか今の時代大変なところでもあります。行政も、災害時の伝達手段として応援したいところだと思いますが、行政からの補助があるわけではありません。日経新聞の記事には、「直ちに収益をあげる特効薬はない。住民参加型の番組などを通じて地域との交流を深め、応援してもらえる放送局になることが重要だ」とあります。まさにコミュニティFMの役割はそこにあります。RADIO

BERRYやCRT 栃木放送ではできない市民参加型のラジオ放送で、「ちょっと時間があるのだけどラジオに出してくれない？」と言って簡単に出られる、そんなラジオ局がコミュニティ放送です。

ミヤラジのその他の情報発信活動として、小冊子「ミヤラジ+マガジン」の配布、大通りの大型ビジョン「ミヤラジ・バンパ・ビジョン」の広告放映、ネットのローカルニュース「宇都宮経済新聞」配信があります。そして、今年4月1日に、栃木県内のコミュニティFM局6局（栃木市：FMくらら 857、宇都宮市：ミヤラジ、小山市：おーラジ、下野市：FMゆうがお、真岡市：FMもおか、足利市：FM DAMONO）で、「栃木県コミュニティFM放送協議会」を設立しました。今後、連携した放送活動や災害時の協力体制などについて協議していくことになります。

最後に皆様にお願ひがあります。是非、ラジオ番組に出ていただきたいと思ひます。会社のご紹介、ご自身の趣味、社員の話等、ご出演いただきお話しください。また、小冊子「ミヤラジ+マガジン」を毎月3万部配っていますが、店頭や会社の受付などに置いていただければと思ひます。広告もお願いできればと思ひます。新しい取り組みや新商品がありましたらお知らせください。取材に伺ひます。ミヤラジ7年目の時に、「いつもそばに」というキャッチコピーをつくりました。いつもそばにラジオを置いて聞いていただきたい、というのと、最近では、スマホのアプリで聞いていただく方も増えています。アプリの登録者数は約6万人です。災害時にはラジオだけでなくスマホでも聞けるラジオ局になっています。皆様の地域の情報を発信するお手伝いと、併せて災害時の放送の維持をしていきたいと思ひています。是非、皆様のご支援をよろしくお願ひいたします。